

あま市役所新庁舎基本設計（最終素案）  
【平成29年11月2日現在案】

## はじめに

平成28年度から、様々な検討を重ね、新庁舎設計・主旨コンセプトに基づき、あま市新庁舎基本設計（最終素案）がまとまりましたので、パブリックコメントを実施し、幅広く市民の皆様公表するとともに、ご意見を募集し、基本設計のとりまとめを進めてまいります。

## 新庁舎設計主旨・コンセプト

基本設計にあたって定めた次の5つのコンセプトに基づいて、とりまとめております。

1

### 中枢防災拠点として 市民の安全安心を守る庁舎

- ・耐震性能が高く浸水への備えも万全な、あらゆる災害に強い庁舎とします。
- ・災害時に電気や水などのインフラが寸断されても機能する自立型の庁舎とします。

2

### 行政機能の拠点として 市民が利用しやすい庁舎

- ・多様な交通アクセスへの対応やバリアフリー化など、すべての人が利用しやすい庁舎とします。
- ・統合庁舎としてあらゆる手続きがワンストップでスムーズにできる庁舎とします。
- ・歩車分離や、使いやすい広場など安全に十分な配慮が行き届いた庁舎とします。

## あま市 新庁舎

3

### 市民の交流拠点としてすべて の人に親しみやすい庁舎

- ・市民活動が日常的にできる場を設け、活力やにぎわいが創出される拠点にふさわしい庁舎とします。
- ・市民の憩いの場として親しまれるよう、あま市らしさを感じられる庁舎とします。
- ・情報発信が行いやすく市民と行政の対話型の運営ができる庁舎とします。
- ・ホスピタリティあふれる庁舎とします。

4

### 環境と共生する、人にも 自然にもやさしい庁舎

- ・豊かな自然の恵みを大切に、敷地周辺の環境と調和のとれた庁舎とします。
- ・省エネ性能に優れ、自然エネルギーを上手に生かした環境負荷を最小とする庁舎とします。

5

### ライフサイクルコストに優れた 経済的かつ長寿命な庁舎

- ・シンプルで無駄がなく、安全性や機能性を重視した庁舎とします。
- ・多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースを備えた庁舎とします。
- ・建設コストから維持管理費の縮減まで、トータルなライフサイクルコストに優れた庁舎とします。



■敷地南東より敷地全体を見る

## 敷地概要・計画概要

### 1. 敷地条件

計 画 地 : 愛知県あま市七宝町沖之島深坪地内  
敷 地 面 積 : 約23,500㎡  
地 域 地 区 : 市街化調整区域、地区計画制定予定  
防 火 地 域 : 指定なし  
そ の 他 : 法22条地域

### 2. 整備概要

#### ○庁舎棟

建 築 面 積 : 約4,000㎡ (南北約58m×東西約65m)  
延 床 面 積 : 約12,000㎡  
構 造 種 別 : 鉄筋コンクリート造 (基礎免震構造)  
階 層 : 地上5階 (高さ: 道路面から約26m)

#### ○その他

立 体 駐 車 場 : 約260台  
駐 輪 場 : 約190台  
平 面 駐 車 場 : 約180台 (うち思いやり駐車場4台)  
広 倉 庫 棟 : 約3,700㎡



■新庁舎建設予定地位置図

## 検討の経緯

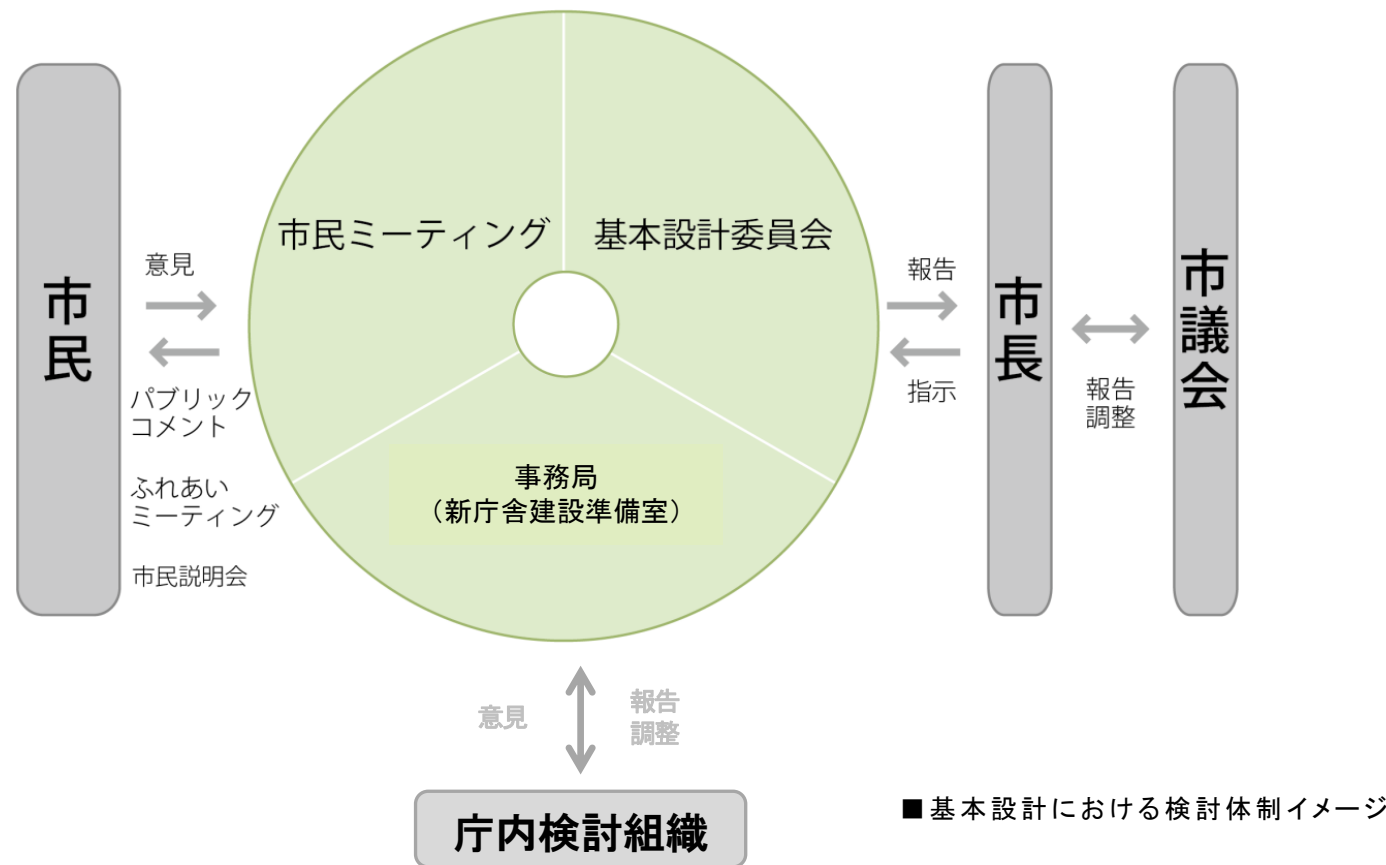
平成27年3月に「あま市本庁舎基本構想・基本計画」を策定しました。

その後、平成28年8月に、基本設計委託業務の設計者を公募型プロポーザル方式にて選定し、基本設計に着手しました。

この基本設計は、平成28年度から2か年かけて実施した、計6回の市民ミーティングと、5回の基本設計委員会における議論や検討を経て、庁舎に期待する機能や敷地内施設配置、平面、外観計画などをとりまとめたものです。

## 基本設計業務の進め方

新庁舎の基本設計は、市民ミーティングや基本設計委員会、パブリックコメントなど、市民の皆様にご参加いただきながら「市民参加型」による庁舎づくりを進めてまいりました。



## 基本設計業務2か年スケジュール



■ 基本設計業務のスケジュール



■ 基本設計委員会の様子



■ 市民ミーティングの様子



■ 庁内検討組織 (窓口部会) の様子

## 配置計画

### 1. 市民の安全安心を守る防災拠点

- ・庁舎は、敷地の中央よりやや南寄りに配置し、敷地外に生じる日影の影響を最小限とするとともに、中枢防災拠点としての機能を整備します。
- ・広場や駐車場は、災害時には広域支援部隊の活動スペースとしての活用も想定します。
- ・立体駐車場は、平常時は一定量の駐車台数を確保し、災害時には救援物資の受入スペースとしての活用を想定します。

### 2. 市民が利用しやすい行政機能の拠点

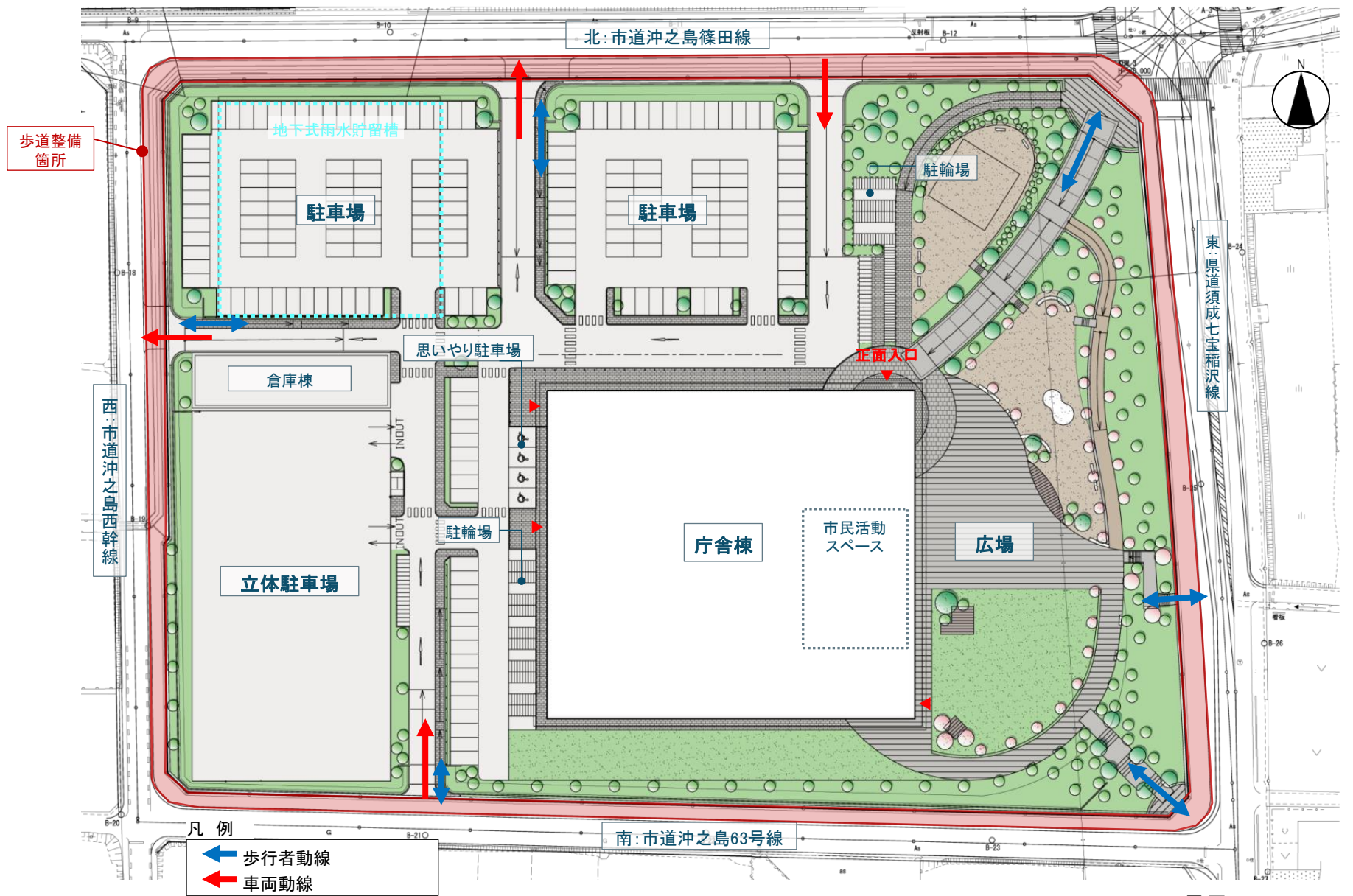
- ・敷地外周の道路は、全ての面に歩道を整備し、歩行者等の安全に配慮します。
- ・自動車のメイン出入口は、敷地北側道路に面して、入口と出口をそれぞれ分けて設けるとともに、南側及び西側にも出入口を設けます。
- ・歩行者入口は、広場に沿って敷地南北をメインとして、北東交差点側は車いす利用に対応したゆるやかな勾配のスロープとし、来庁者を正面入口へ導きます。

### 3. 市民に親しまれる交流拠点

- ・庁舎1階の市民活動スペースと日常的に連動した活用やイベントなどが行えるよう、広場との出入口の位置や舗装に配慮します。

### 4. 周辺環境に調和する配置計画

- ・広場は、県道への緩衝緑地を兼ねるとともに、東側集落との連続性を考慮して、敷地東側に配置します。
- ・地下式雨水貯留槽を設置することにより、敷地内の雨水の流出を抑制するなど、周辺環境の保全に配慮します。



■ 配置図

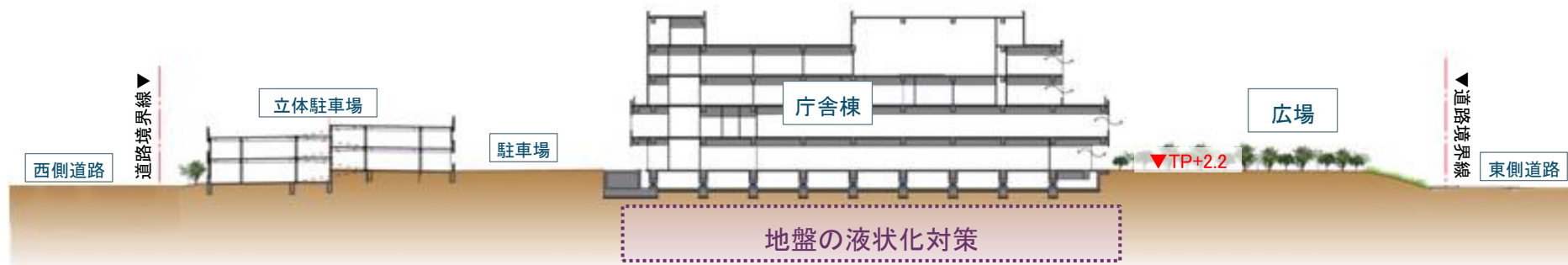
## 浸水や大地震に対応した造成計画

### 1. 敷地全体を嵩上げる防災盛土

- ・庁舎敷地は、中枢防災拠点として市災害対策本部のみならず、広域的な支援部隊等の参集活動を想定しており、敷地全体を嵩上げ造成(T.P.+2.2m)し、浸水リスクに備えます。

### 2. 庁舎の建物下における地盤の液状化対策

- ・災害対策本部となる新庁舎の建物下においては、耐震性を確保するため、地盤の液状化対策を実施します。



■ 敷地横断面図

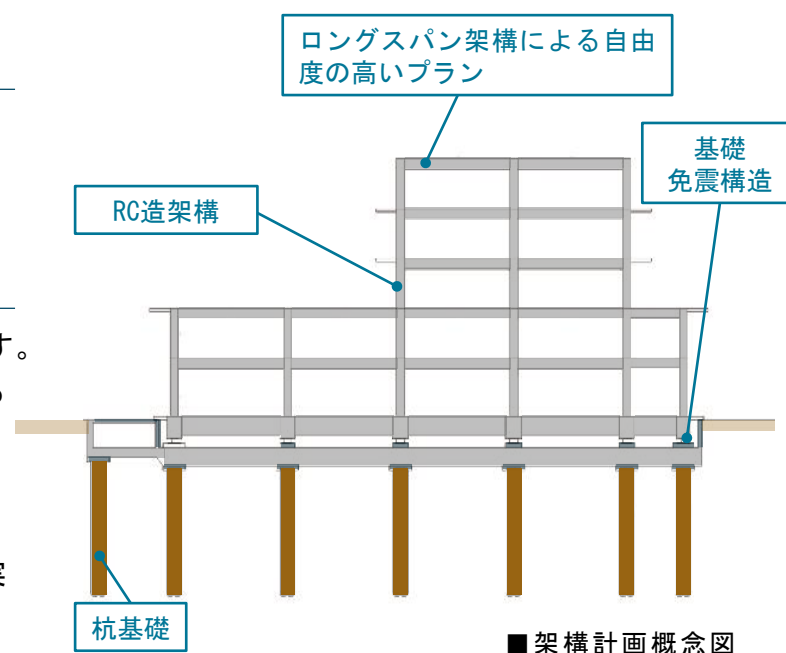
## 大規模地震時にも機能継続が可能な構造計画

### 1. 免震構造の採用

- ・新庁舎は、免震構造を採用することにより、防災拠点施設として高い耐震性能を確保するとともに、地震災害時にも十分な機能確保を図ります。

### 2. 耐震性能を備えた構造体

- ・上部構造は剛性に優れる鉄筋コンクリート造とします。また、大規模地震が起こっても、構造体の補修することなく使用でき、人命の安全に加えて十分な機能確保を図ります。
- ・基礎構造は、庁舎敷地における地盤調査の結果を踏まえて、沈下等の影響が生じないよう、建物を確実に支持する地耐力や施工性に十分留意します。



## 外観計画

### 敷地周辺一帯と調和のとれた外観計画

- ・上層階をセットバックし、段状の外観とすることにより、周辺への圧迫感を和らげます。
- ・1階はガラスの透明感により、市民が集い、人のにぎわいが感じられるようにします。



## 平面計画

新庁舎の平面計画は、利用者の多い窓口部門と市民利用機能を低層階に集約することにより、市民にとって利便性の高いフロア配置とするとともに、業務の効率性の観点から、事務フロア及び設備室は面積を絞ったうえ、上層階に集約配置します

### 市民利用に配慮したスペースの提案

- 市民利用の多い窓口部門を1階に集約し、わかりやすく見通しの良いレイアウトとするとともに、窓口カウンターは誰もが使いやすいローカウンターを基本とし、来庁者の利便性の向上を図ります。
- 市民に開かれた新庁舎とし、市民協働型のまちづくりを推進するため、市民利用に配慮したスペースを庁舎1階および屋外の広場に整備します。
- 市民交流の拠点として、市民が多目的に利用できるスペースの設置や、市民活動団体への支援として、活動内容の情報発信などを行います。
- 市民活動スペースに隣接する広場については、庁舎と一体的に各種イベント等で利用できるとともに、緑に囲まれた日常的な憩いの場として利用できるスペースとして整備します。

#### 市民窓口

- 市民の利用が特に多い窓口部門を1階に集約します。
- 窓口カウンター近くに相談室を複数設け、市民が気軽に相談できるようプライバシーに配慮した配置とします。



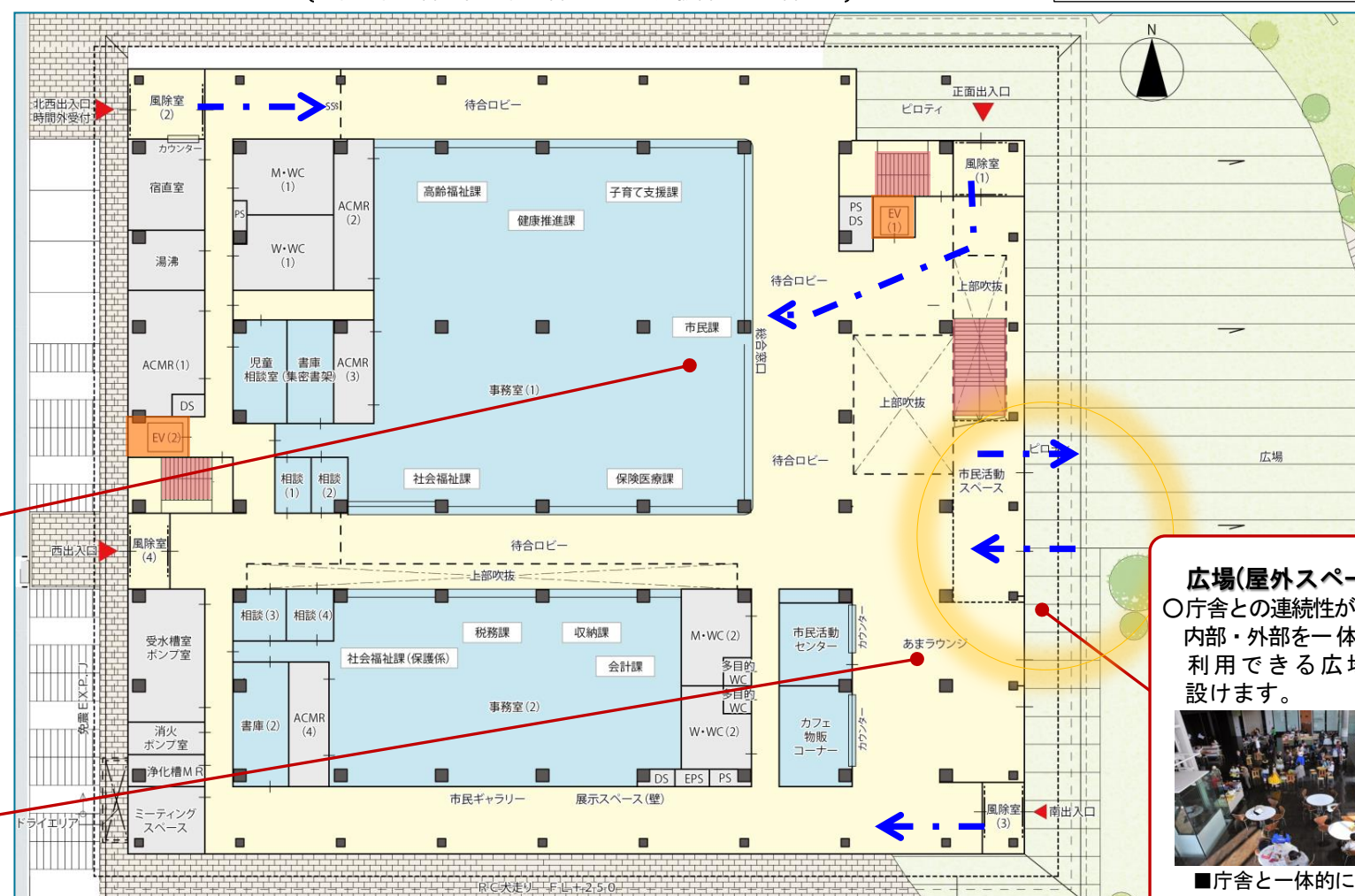
#### 市民活動スペース

- 市民協働の一環として、多目的に利用できるスペースを設けて、市民同士の交流を促す機能を備えます。
- 市民協働の取組みを支援するため、市民活動の情報発信や相談業務などの市民活動センター機能を備えます。



### 1F 窓口部門

税務課・収納課・市民課・保険医療課・健康推進課  
社会福祉課・高齢福祉課・子育て支援課・会計課



#### 広場(屋外スペース)

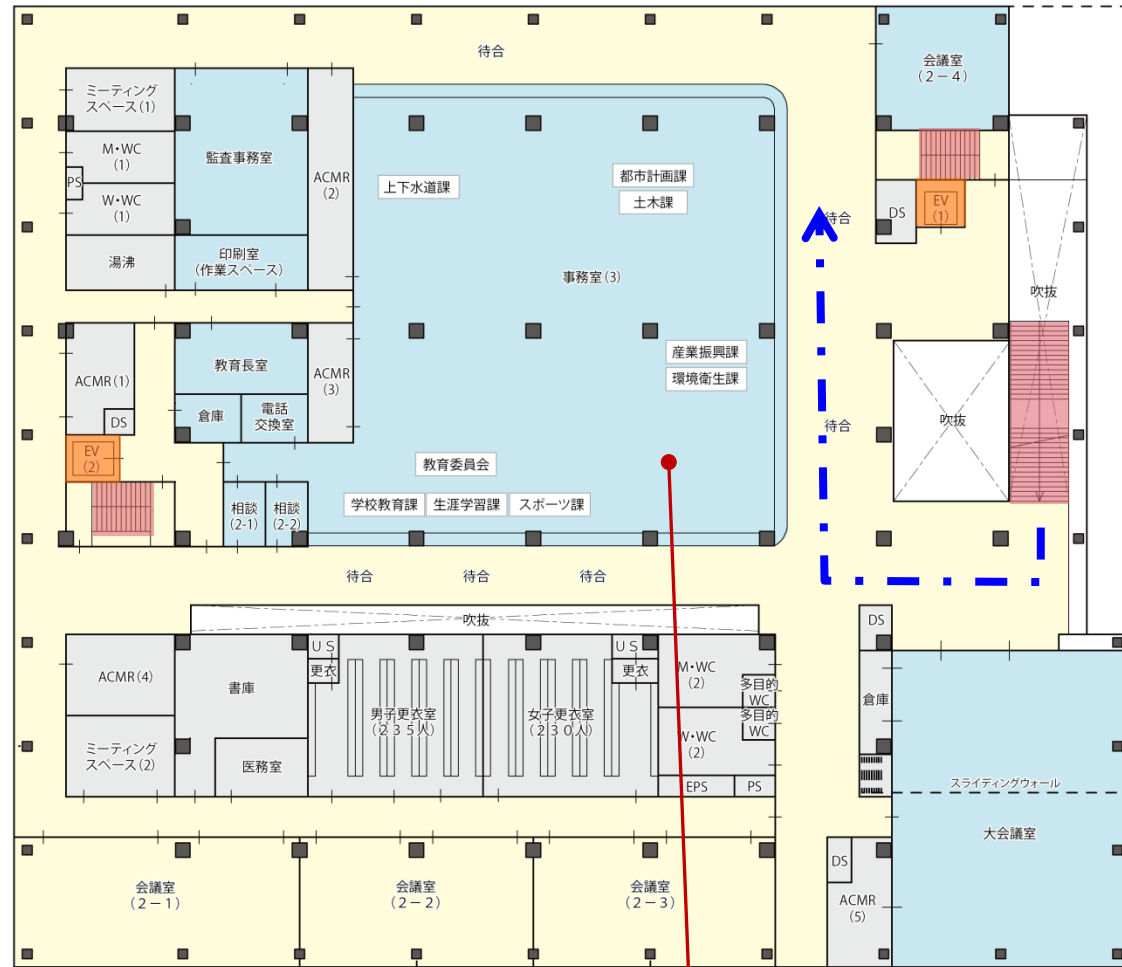
- 庁舎との連続性があり、内部・外部を一体的に利用できる広場を設けます。



### 平面計画

## 2 F 窓口部門

環境衛生課・都市計画課・土木課・産業振興課  
 上水道課・下水道課・学校教育課・生涯学習課・スポーツ課  
 監査事務局



**執務スペース**  
 ○間仕切りが少なく、見通しの良いワンフロア型とし、将来の機構改革等にも柔軟に対応できる執務スペースとします。  
 ○関連部署を近接配置することにより、市民の窓口手続きの連続性や業務連携による事務の効率化を図ります。  
 ○通路等の共有スペースと事務スペースを明確にすることにより、セキュリティの確保を図ります。



■効率的なユニバーサルオフィスのイメージ

## 3 F 事務部門

企画政策課・人事秘書課  
 (市長室、副市長室)  
 財政課・人権推進課  
 総務課・安全安心課  
 (災害対策本部室)



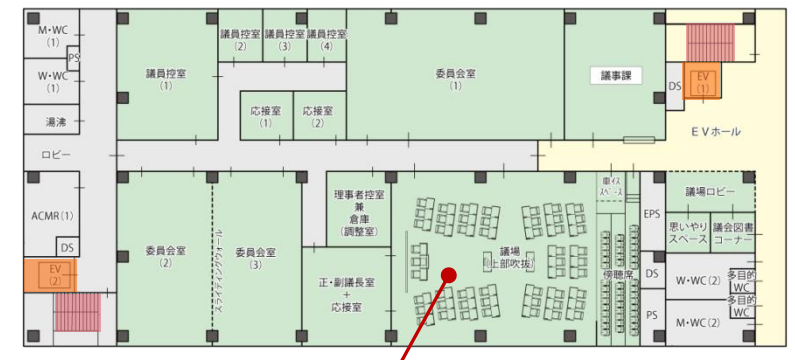
**災害対策本部室**  
 ○災害対策本部機能を強化するため、発災時の被害状況等を把握し、迅速な指揮命令を行えるよう適切なスペースと機器類を整備した災害対策本部室を整備します。



■災害情報が一目でわかる災害対策本部のイメージ

## 4 F 議会部門

議事課  
 (議場・議会諸室)



**議会関連**  
 ○本会議場は多目的に活用するためフラットな床とします。  
 ○委員会室を3室設け、異なる委員会の同時開催が可能な計画とします。

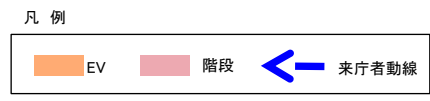
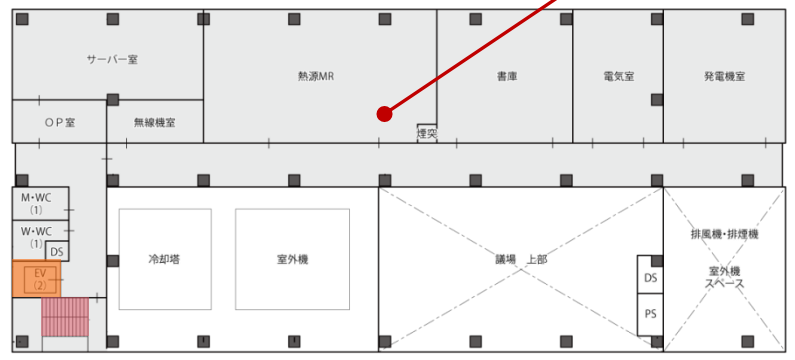


■床がフラットな議場のイメージ

**サーバー室、電気室等**  
 ○大規模災害に備え、庁舎5階に庁舎機能の維持に不可欠なサーバー室、電気室や発電機室等の基幹設備を集約します。

## 5 F 機械室

機械室・サーバー室等



## 建物全体の環境配慮・設備計画

### 1. 自然採光・自然通風の積極的な導入

- ・トップライトによる自然採光や自然換気窓による自然通風を確保し、環境負荷の低減を図ります。

### 2. 省電力・長寿命の照明計画

- ・省電力・長寿命のLED器具を積極的に採用し、各諸室の適切な照明制御を行うことで、最大限の省エネルギー化を図ります。

### 3. 太陽光の有効利用

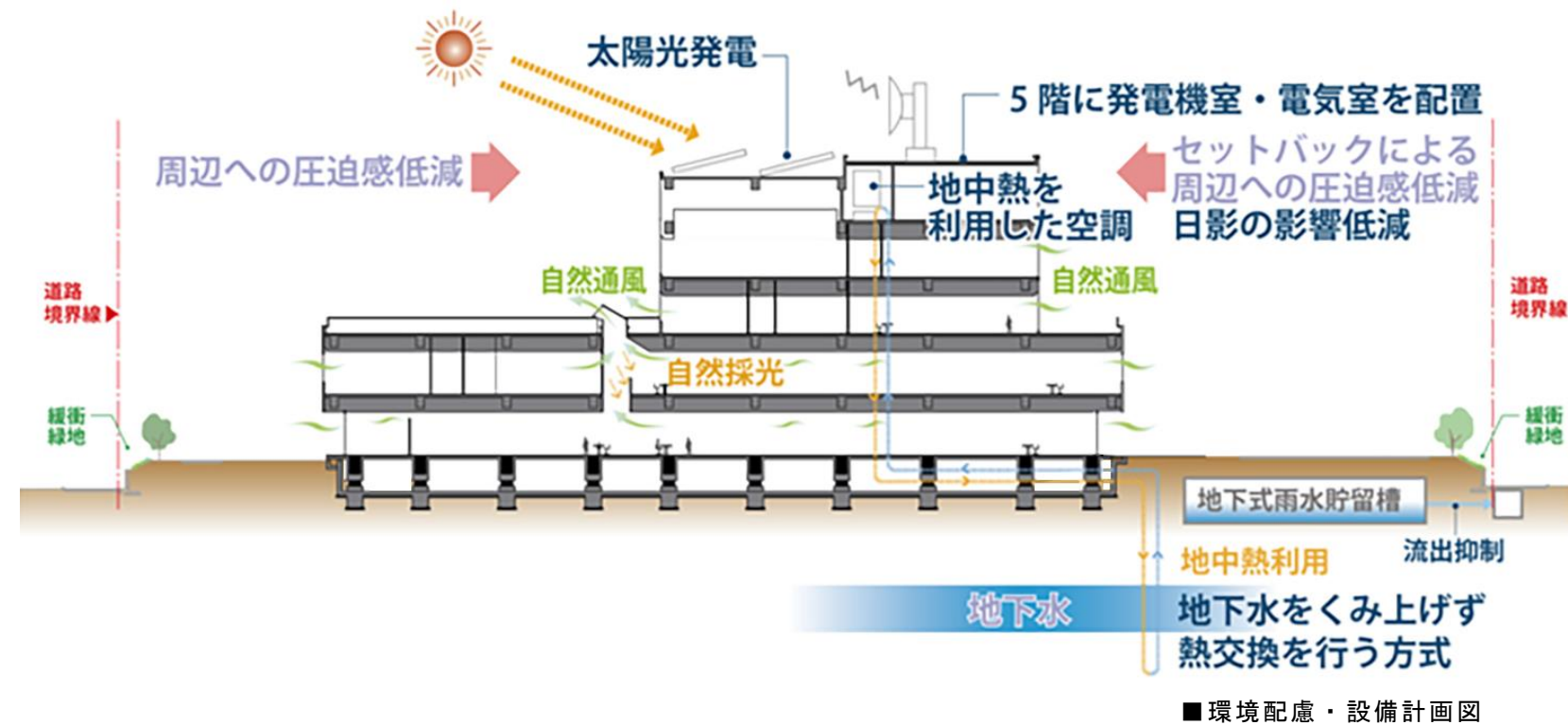
- ・太陽光発電設備を採用し、自然エネルギーの活用を図ります。

### 4. 豊富な地下資源（高い地下水位）の有効利用

- ・高い地下水位を利用した地中熱利用による空調システムを整備することで、自然エネルギー利用による省エネルギー化を図ります。

### 5. ライフラインのバックアップ機能

- ・受電については、大災害における中枢防災拠点機能を維持するため、電力の2系統化を図ります。
- ・非常用発電設備を設置して、災害時の電力の確保（72時間分）を図ります。
- ・上水及び雑用水の備蓄（4日間）並びに排水貯留槽の設置（7日間）などにより、災害時における一定期間の給排水機能を確保します。



## 新庁舎整備事業スケジュール

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
新庁舎整備	基本設計		実施設計	庁舎建設工事			開庁予定

## 概算事業費

- 庁舎建設費：約94.5億円
- 用地取得費：約7.7億円
- その他関連整備費：約17.8億円

※事業費については、用地取得費や土地改良費、周辺インフラ整備費など、あま市本庁舎基本構想・基本計画の策定時点では見込むことができなかった費用を含んでいます。